



■日時

2022年5月14日（土）

開会式9:00

競技開始10:00

5月15日（日）

始球式8:50

競技開始9:00

閉会式17:00

■会場

ほっともっとフィールド神戸

G7スタジアム神戸

神戸市立若葉学園

NPO日本身体障害者野球連盟

第30回全国身体障害者野球大会 報告書

2022.5.14 9:00～

開会式

コロナの影響で3年ぶりの開会式は、全員マスク着用で行われました。前日からの雨がまだぱらつき、天候が不安定な中、10番ゲート付近で行いました。狭い場所かつ、マイクの音声も届かない中、消防音楽隊の楽曲、アナウンサーや選手、来賓の皆さまが声を出してくれ、選手のやる気に火を灯してくれました。



選手宣誓は4年ぶりの出場となる新潟シリアスより樋口 克弥選手 21歳。

1

DAYS

いよいよ試合開始。
土も足して整えられたグラウンドで始球式。
ENEOS株式会社執行役員 広報部長
布野 敦子様と一緒に気持ちを届けてもらい、
熱戦がはじまります。





京都VS神戸

2対7 神戸勝利

憧れの神戸相手に胸を借りるつもりでぶつかると言っていた京都。1回表に神戸に4点を先制されたが、京都Fはぎりぎりの人数ながら、2点をきっちり返し、日頃の練習の成果を実感できました。



名古屋VS大阪

14対0 名古屋勝利

大阪ジャガーズは東近畿の古豪だが、3回コールドとなり、さすが昨年優勝の名古屋の圧巻の攻撃力に驚かされる一戦でした。



広島VS龍野

4対0 広島勝利

中四国では岡山に次いで二位の実力を備える広島相手に、1回4回で2点ずつを失ったものの、龍野も力投し、めいっぱい守りました。



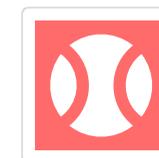
香川VS岐阜

4対6 岐阜勝利

元プロの山中達也氏の声かけで集った香川初の障害者野球チームチャレンジャーズ。

今大会が初出場。

4回には打線がつながり4点を返し、残念な結果になったが、全員の笑顔が印象的でした。



阪和VS岡山

5対10 岡山勝利

昨年の全日本選手権の覇者岡山。

対する阪和は全日本選手権の2回戦では10対0で敗退したが、1回3回で5点を返す健闘を見せました。



仙台VS千葉

2対10 千葉勝利

昨年11月の但馬ドームの全日本選手権では同点ジャンケン対決となった因縁のチーム。

今回は千葉が快勝。

仙台は悔しい結果となりました。





東京VS北九州

0対13 北九州勝利

全国大会、全日本選手権常連の北九州だが、
コロナで3年ぶりの公式戦出場。

東京は10年ぶりの全国大会出場だったが、
壁は厚かった。しかし、選手は皆全力プレー
でぶつかり、投手も投げ切り、最後は次回へ
の意欲と笑顔を見せてくれました。

雨が再度ぱらつくシーンもありましたが、午後からは天候も安定し、時間通り1日目の試合を終えることができました。

福本豊名誉理事長も駆けつけてくれ、選手にいつも通り短いながらも胸躍る激励の言葉をかけてくれました。

古くからの選手は再会に喜んで駆け寄っていました。



新潟VS徳島

11対0 新潟勝利

公式戦初対戦の2チーム。1, 2回は双方得点が入らない展開だったが、3回に新潟が2点を取り勢いづきました。徳島は下肢障害が多く走れる選手の参加が少なかったのが辛いところでした。



今年は、コロナの感染予防対策として、1週間前からの体調管理と
体調チェックシートの記入。

受付にて体調チェックシートの提出、検温、消毒を行いました。

試合間のベンチの消毒、屋外での弁当飲食、試合以外でのマスク着
用の徹底など、放送でも繰り返し伝え、参加者もしっかり協力でき
ました。



1.5



感染予防対策 ボランティアスタッフ

関西国際大学からは野球部のレギュラーメンバーや、女子野球チーム兵庫ブ
ルーサンダースの選手が協力してくれました。ボールボーイ、受付、グラウ
ンド整備や掃除まで、慣れた動作で協力してくれました。

放送は両球場、神戸学院大学学生放送局の皆さんがアナウンスしてくれまし
た。

身体の不自由な選手たちを若者の笑顔でフォローしてくれ、球場が明るくな
ります。





懇親会

懇親会も3年ぶり。

コロナ感染予防のため、マスク会食とし、座席配置はカウンター形式、個別膳での提供と黙食にて行いました。

ステージ上から、初出場チーム香川チャレンジャーズのメンバー紹介や、一人一人の抱負を語ってもらいました。

各チームの代表からは、全国に向けて地元の地区やチームの近況などを伝えました。

また、来年度の世界大会に向けて発足した実行委員会の役員紹介や、日本代表選出の予定、映画「4アウト」実行委員会が編集してくれた当日の試合映像を見ながら、勝った試合、負けた試合、自分たちの活躍や、別会場で見られなかった試合などを、楽しく鑑賞しました。



2 DAYS



2日目の第一試合がはじまります。
今年はENEOS様のご協力で、地元の少年野球
チームが応援に駆けつけてくれ、始球式を行いま
した。
5チームのバッテリーと打者が並び、ボールを届
けてくれる壮観さと喜び。



名古屋VS神戸

7対3 名古屋勝利

1回表神戸の先制2点からはじまったものの、名古屋に毎回得点を許してしまいました。神戸は今大会最年少の11歳の選手をはじめ、10代選手が初出場しており、試合後悔しさに涙する場面には心打たれました。



千葉VS岡山

0対5 岡山勝利

0対0で投手戦となるかと思われたところ、3回に岡山の打線がつながり一気に5点が入り、千葉の打線も頑張りましたが、得点に至りませんでした。



新潟VS北九州

1対11 北九州勝利

当たると長打の北九州に3回に一挙7点を許し、新潟には厳しい展開となりましたが、最後までめいっぱい声を出し、熱いベンチの盛り上がりは今大会一番でした。



岐阜VS広島

6対6 岐阜勝利

毎回得点が入り見せ場の多い試合でした。最終回、広島からサヨナラランナーも出ましたがホームでアウト。同点じゃんけんによる勝利となりましたが、実力の拮抗した試合に観客も大いに盛り上がりました。



岐阜VS名古屋

3対10 名古屋勝利

岐阜が1回表で先制したが、その後は名古屋に得点を重ねられ、最終回に2点を返したが、届かなかった。今大会、岐阜は初のベスト4進出と躍進しました。



北九州VS岡山

3対4 岡山勝利

実力者同士のガチンコ対決で、見ごたえのある試合でした。

2回までで、1点を追う北九州。打球は飛び惜しい場面は多かったが、岡山の守備が上手い。あと一步及ばずで準決勝敗退となりました。

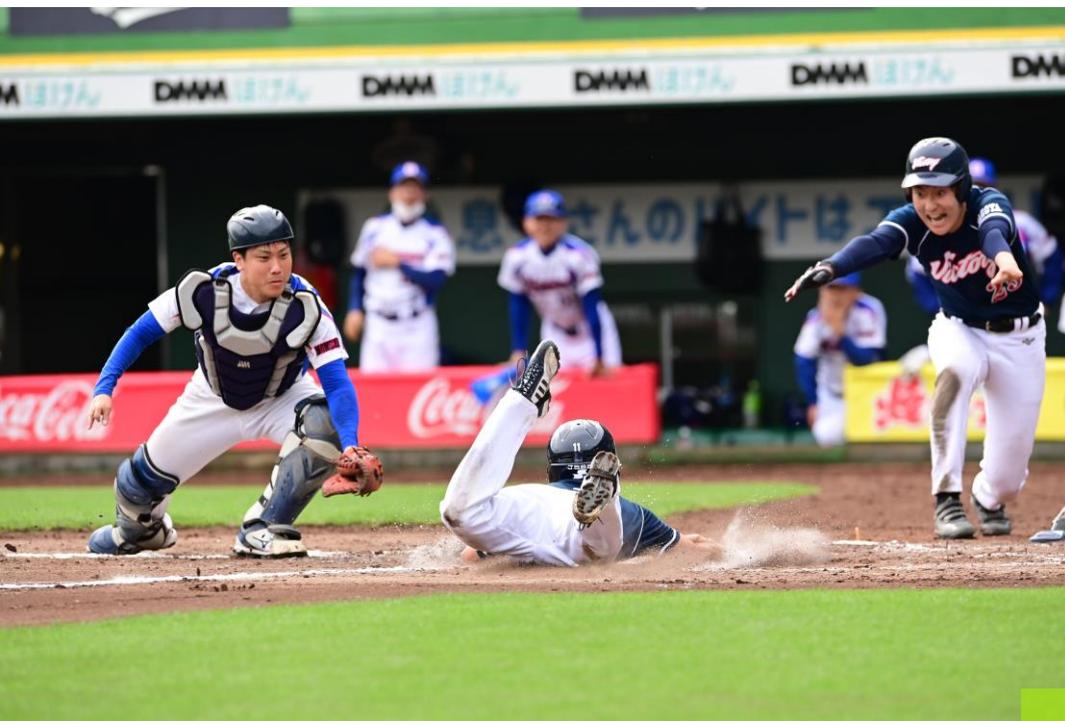




決勝

final

名古屋VS岡山



昨年11月の但馬ドーム全日本選手権でも決勝を争った2チームが残りました。観客がかたずをのんで見守る中、はじめた決勝は、投打ともに双方ミスは少なく、1点差を岡山が追う展開になったものの、最終回に名古屋が2点、岡山が1点を返しましたが、4対2で名古屋の連覇となりました。



優勝 名古屋ビクトリー

第29回の初優勝に続き、
2連覇。
確かな実力を見せました



準優勝 岡山桃太郎

全日本選手権では名古屋に勝利
して日本一になったものの、
今回は一歩及ばず。
切磋琢磨して高めあう
2チームに。

第30回全国身体障害者野球大会

大会結果

01

名古屋ビクトリー

優勝

04

優秀選手 早嶋 健太

岡山桃太郎

02

岡山桃太郎

準優勝

05

殊勲 宮下 拓也・高月 秀明

名古屋 ・ 岡山

03

最優秀選手 藤川 泰行

名古屋ビクトリー

06

敢闘賞 田中 清成・浅野 僚也

名古屋 ・ 岡山

応援ありがとうございました

コロナ禍のなか障害者が外に出る機会がますます減ってしまった2年。
練習もなかなかできないチームの悩みが多く寄せられていました。
今大会を従来通りのかたちで実施できたのは、多くの方のご協力と御協賛のおかげです。
この大会に初めて参加した選手から、感動と御礼が届いて、運営一同嬉しい気持ちでいっぱいです。
一人でも多くの障がい者が野球と出会い、生きていく喜びを見つけられるよう
今後も尽力してまいりますので、応援よろしく願いいたします。

ENEOS株式会社様

ENEOS応援サポーターの皆さま

株式会社
FOOD&LIFE
COMPANIES様

ゼット株式会社様

神戸トヨペット
株式会社様

株式会社
浅沼組様
MLB JAPAN様

関西国際大学様

兵庫ブルーサンダース様

神戸市立若葉学園様

株式会社CEO,Inc様

ダイワマルエス
株式会社様

Japan Dream League Baseball



facebook

<https://www.facebook.com/Japan.Dream.Baseball>



instagram

<https://www.instagram.com/japan.dream.baseball/>



Our Mission

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。
 3. すべての人に健康と福祉を、に共感し、野球を通じ障がい者が生きがいをもてる社会を目指し活動します。

